

悪徳商法の被害にあわないための我が家の対策

群馬県・千代田町立千代田中学校 1年 植木 千恵

テレビや新聞で悪徳商法に関する記事が絶えることがない。特に「振り込め詐欺」による被害は後を絶たない。その悪意のある手口には本当に腹がたつ。最近では、一人暮らしのお年寄りをターゲットにするだけでなく、遠く離れた所で働く子どもたちになりすまして親をだまし、銀行のATMまでゆうどうして、お金を振り込ませるなど手口はますます巧妙化してきている。

6年ほど前、我が家でも祖母が悪徳商法に引っかかってしまうところだったが、危うく母がそれに気がついて被害をまぬがれた。祖母はセールスの甘い言葉にまんまとのせられてしまい、1万円くらいの「竹炭入り健康布団」とかいうものを、25万円もの大金で購入する契約をしてしまったのである。手口は次のようなものであった。

そのころ、祖母は一人暮らしだった。きちんとした身なりの若い男2人が家に来て来て、近くで健康のお話をするので、ぜひ聞きに来てくださいとさそわれた。祖母は断る間もなく、甘い言葉にさそわれて近くのその会場まで出向いてしまったのだ。そこには大勢のご近所のお年寄りが集まっており、またそこで安心して気がゆるんでしまったという。最初は健康に関する話が30分ほどあり、クイズ形式の簡単な質問に答えられるとティッシュペーパーをくれたり、おしょう油をくれたり、とお年寄りを安心させ、楽しませるようななごやかなふんい気だったという。祖母は途中で帰ろうと思ったが、一つしかない出入り口は男たちでふさがれており、退席できなかつたというのだ。最終的には、ゆうどうされて、高額な布団を買わされてしまうという手口だった。10人以上のお年寄りがすぐ契約してしまい、契約すると、すぐそのお宅まで布団を持って行き、袋を開けてすぐ使うようにすすめるのだ。「今晚からと言わず、すぐしいて使ってくださいね。自分の健康のためですよ」と優しく話しかけてくる。祖母はふだんから、母に高額商品は自分の一存では買わないように言われていたので何度も断つたらしい。でも、「若いものに聞かないで買うと怒られるので」と言えば、「年金は自分のものでしょ。若いものにえんりよしないで、自分の健康のために使いなさいよ」と言ってくる。どんな言葉でも言いくるめられてしまうので、あきらめて契約書に名前を書いてしまったというのだ。たまたまその日の夜、母が訪ねてきて、その布団に気がつき、事情を聞いてクーリングオフをすることができた。

後日、駐在所のお巡りさんが被害にあいませんでしたかと訪ねてきた。悪徳業者が摘発されたのだ。20人くらいのお年寄りがすでにお金を払ってしまい、布団も使用してしまったので、返品できなかつたらしい。お年寄りなので、クーリングオフという言葉は聞いたことがあっても、実際にその手続きとなると、面倒なことややり方がわからないなどの理由で期間内にできなかったというのだ。

この事件以来、我が家ではセールスマンの来訪や電話でのかんゆうには、家族全員がかなりの注意を払っている。特に、電話では「ご主人様はいらっしゃいますか」、「お母さんはいらっしゃいますか」などと、お年寄りや子どもだけということを確認するような場合もある。また、「〇〇子さんいらっしゃいますか」などと、母の名前を親しげに言うので、わたしは、母の友だちとかんちがいして、電話を取り次いでしまったことも何度もある。電話する前にいろいろと家族構成や名前などを調べてあるらしいのだ。

最近土曜日や日曜日の午前中に母に電話がかかってくることが多い。自然化粧品やエステサロンなどの美容関係が多い。母は家族には変な電話には対応しないでね、と言いながらも、自分はすぐ引っかかってしまい、高額な化粧品を買う羽目になっている。エステなど初めは1,000円おためしコースとかいうのだが、最終的には50万円くらいかかるコースをすすめられてしまうのだそうだ。さすがに、母もそれには引っかからなかったようだが、毎月3,000円ですよとか言われると、安いという錯覚におちいってしまうから怖いのだ。

もちろん真面目なセールスの方もいるので、わたしたちは見分けたり、聞き分けたりできるかしこい消費者にならなければならない。我が家の電話対処法として、「今、母は（または、父は）手が離せません」、「今は余裕がないので、見合わせます」、「今、来客中なので後にさせていただきますか」などと丁寧に丁ねいに応対するように心がけている。決して、今自分一人しか家にいないということのをさとられないように。また、相手が不快感をあらわにして、逆うらみなどされないようにすることもポイントの一つだろう。